

令和 5 年度の教育活動等に対する学校評価書

学校法人聖公会栄光学園聖マリア幼稚園 園長 福田優美子
 学校法人聖公会栄光学園聖マリア幼稚園学校関係者評価委員会

1. 教育目標

【神様の愛の中で共に絆を深め合う】

- 神と人ともに愛されていることを感謝できる子ども。
- キリスト教保育の基盤の上に一人ひとりの子どもたちがそれぞれの個性を活かし合って共に認め合いながら生活出来るように歩む。
- 命を大切に、また一つひとつを大切に出来る子ども。

2. 本年度取り組んできた重点目標

- 1) お祈りや聖書を通して優しい心、感謝する心を育む。
- 2) 一人ひとりの子どもたちの気持ちを丁寧に受け止め、様々な体験をする中で一人ひとりが個性を發揮できるように心掛ける。
- 3) 野菜や生き物を育てることで命の大切さを知る。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

○お祈り ○聖話 ○多様性 年度初めに定めた下記の取組指標と成果指標を基に年度末に成果を検討した結果は以下の通りである。

評価項目	自己評価			学校関係者評価	
	評価	取組状況	取り組みによる成果	評価	意見
キリスト教保育のあり方を理解し聖話やお祈りに積極的に参加する	B	<ul style="list-style-type: none"> ・週に一度の合同礼拝で子どもと共に祈り聖話を聞く中で「優しくする心」「助け合う心」「仲良くする心」等を学ぶことができた。 ・自分の思ったことや感じたことを言葉にして祈ることができた。 ・想像性を高めるようにアイデアを出し合うことができた。 ・保育の準備よりも子どもたちと祈る時間をもつことを最優先した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミッションとしての教育を理解し、積極的に礼拝に参加し心の修養に努めるようになった。 ・想像をふくらませて語り合い、自由祈祷ができるようになった。 ・キリスト教保育で聖マリア幼稚園として何を伝え、育てるのが明確になった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日のお祈りや聖話を通して、人を思いやる気持ちが育っていて表現活動にも導いており共感できた。 ・卒園式で園児の様子を拝見したが落ち着いていて今迄培ってきた全てが浸透していて、特色をしっかりと出していると感じた。
一人ひとりの子どもたちに関わる中で様々な思いに気づき対応する	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする子の援助や教育についてその都度話し合い、計画や支援方法を共有、実行し学びを深めた。 ・自分の思いを言葉で表現することが苦手な子が多く、一人一人に合わせて対応することができた。 ・療育の先生に園での様子を見てもらい、それぞれの立場で意見交換をする時間を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援方法での課題点等を話し合いその経過を情報交換し、更に深く関わることができるようになった。 ・小さなことでも一緒に喜び、励まし合い、共に成長を感じることができた。 ・自分の事だけではなく相手のことも考える「おもいやり」「優しさ」を伝えられる環境づくりができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりに合った内容を把握し園児に自信を与え次のステップに繋がるように取り組んでいると思った。 ・支援が必要な園児に対しても、行事などに参加できるよう努力していることに好感を持てた。
命に関わる事に目を向け、自分の命や他の命等、機会のあるごとに子どもたちに伝える	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスで育てる野菜を決め、土作りや苗植えを行った。毎日の水かけや新しい芽の発見等、食すまでのプロセスを知り、「育てる楽しさや大変さ」「命の大切さ」を学んだ。 ・3.11の教訓や昨今の大型地震の情報を得て、防災についての見直しや話し合いを行ない、避難訓練を実施する中で職員間でも確認ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な野菜の成育状況に興味を持つようになり、収穫の喜びや食べる楽しさを知り苦手な野菜も食べられる子が増えた。 ・図鑑等で植物を詳しく知ることができた。 ・防災について何が大切か、必要なもの等、事の重要性を皆で認識し準備する方向性をみつけられた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜や植物を育てること、収穫すること、いただくことを共有し命や食の大切さを学ぶことを実践しており、良い取り組みだと思う。 ・災害時の対応について職員間で共通理解し、園児を安全に守る為の話し合いを行ない、よりよい方法を目指そうとする教職員の姿勢が素晴らしいと思う。

4. 総合的な評価結果 (A:十分に成果があった B:成果があった C:少し成果があった D:成果がなかった)

評価	理由
A	キリスト教保育の大切さを再確認し、教師が子どもたちと共に祈りや聖話に参加する中で子どもたちに伝えていく事柄を共有することができ方向性が明らかになった。命を大切にする手段として防災や野菜作りも加えてより深い所で心身の助長をするように努めた。様々な課題も学びへと繋がった。

5. 今後の課題と具体的な取り組み方法

来年度への課題	来年度の具体的な取り組み方法
園で目指している教育内容 思いの伝え方を考える	職員間での情報共有や意見を基に教育の質を高められるよう園内研修も密に行なう。 社会や保護者に対する発信方法を考える。